

 **学校だより** **本荘**
2023 **Smile**

令和5年度 第43号
令和6年2月15日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

合奏祭に参加しました。そこでも学び子どもたち。さらに他校との交流で自分たちのよさを再発見したのでした。

1月21日は合奏祭でした。今年度は、場所が「ウイング松橋」です。例年のように県立劇場であれば、近くもあるし、地元意識もあり、緊張感が和らいだと思うのですが、この日は遠い遠い松橋が会場です。本荘っ子の面々は緊張感を隠し切れないうえに、

前日やその朝はしっかりと練習をして、パフォーマンス的には大丈夫！！と思っていた校長先生ですが、子どもたちは不安の方が大きかったようでした。下の1枚は入場寸前の子どもたちです。直前になると不安を吹っ切って、演奏者の顔になるのですから大したものでした。

今年度も、立派な演奏ができました。知り合いの先生方に「やっぱり本荘の太鼓はいいですね。」「これがないと合奏祭って感じがしないですね。」など賛辞のお言葉を多数いただきました。うれしいのは、この会場にいる先生方って、吹奏楽だったり、合唱だったり音楽に精通した先生方が集まっているのです。そんな先生方からお褒めの言葉をいただくと余計にうれしくなるものです。

👉【いざ出番!!】

私の前任校で吹奏楽を指導している丸目高弘先生は、お父上の丸目雄二先生が、若き日に、この本荘小で教鞭をとられていました。お父上も音楽の大家で高名な校長先生でもあります。その丸目先生が、「今年の本荘も楽しみですね」と私と会話をしていたのですが、それを聞いていた子どもが「校長先生、丸目先生ですよね。」

と聞いてきたので、「え？なんで知っているの？」

と聞き返すと「去年、とってもほめてくれた先生ですよ。それに、去年の開会の時にトランペットを吹いてくれて、とてもかっこよかったから覚えています。校長先生の前の学校の先生ですよ。城北小の演奏もすごかったもん。」と答えてくれました。

子どもってすごいなあと改めて感心した場面でした。加えて、子どもの心には真によいもの、美しいもののはっきりした記憶として残るのだということも実感しました。よその学校の子どもたちにも、きっと本荘小学校の太鼓の響きが「美しいもの」として残ってるのだらうと思います。人と人はこのようにしてつながっていくのです。そして、その間をつないでくれものの一つが、音楽であり、本物なのだと思います。(校長)

(裏面に続きます)



校長先生の虫眼鏡 「合奏祭のビフォーアフター」

合奏祭に参加する前後の子どもたちの様子です。終わった後のすがすがしい表情が印象的でした。



前日、最後の指導を聴く部員たち



前日の練習を終えて一礼



出発前の練習を終えて



4年生は初陣でしたね



昨年よりも余裕のあった5年生



6年生はリーダーとして頑張っていました。